



## すべり止めコート施工事例 No.026

ユーザー	無人立体駐車場	使用製品	すべり止めコート・グレー
施工個所	屋外階段／踊り場	使用量	7セット
被着体	金属(縞鋼板)		
下地準備	清掃後、マスキング		
評価	好評		
備考	降雨時、縞鋼板の階段は滑り易く危険。防滑テープは剥がれ易く、端部が捲れると“躓き、等の原因にもなりかねない。すべり止めコートなら長期間の耐久性と安全性を維持できる。		

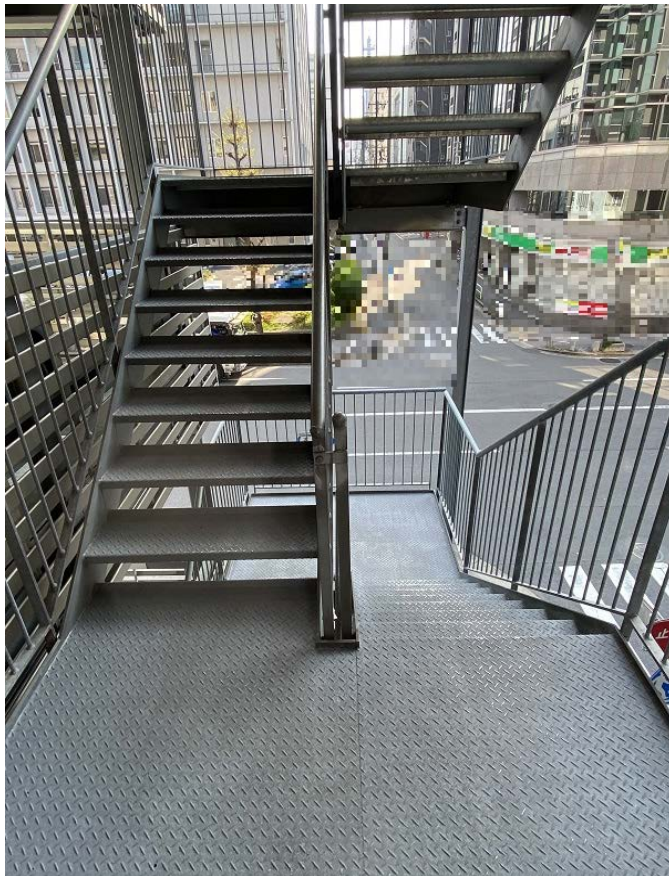


[写真-1]

すべり止めコートの施工の背景;

本件の立体駐車場にはエレベーターが無く、利用者は設置された縞鋼板の階段を歩いて昇降することになるが、階段は縞鋼板製で、濡れると滑り易くなる欠点があり、最近の天候においてはゲリラ豪雨のような突然の大雨に遭遇することも珍しくなく、運悪く激しい雨に合った利用者が、慌てて階段を昇降すると、思わぬ事故に繋がる恐れがある。

画像左の赤枠破線で囲んでいるのが昇降階段。



[写真-2]

施工前画像。

駐車スペースと昇降階段を結ぶ踊り場からの撮影。

左の画像は、4階の踊り場。

画像左の階段を上ると屋上階へ。

屋上階から4階へ繋がる階段及び踊り場は雨避けが無いので、すべり止めコートを全面塗工した。

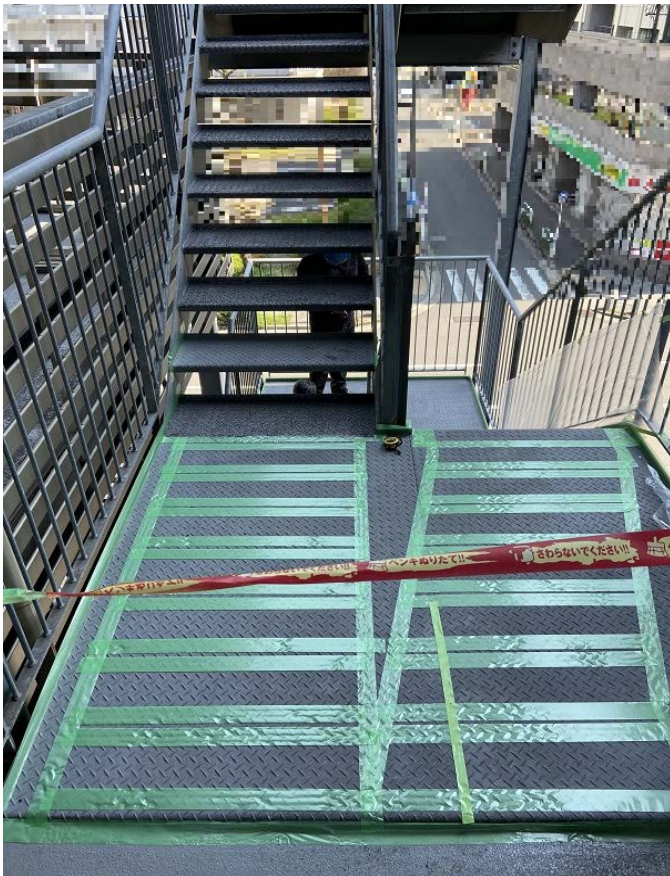
4階から地上までの階段は段鼻部分に、踊り場に関しては横断歩道のように間隔を空けて塗工することとした。



[写真-3]  
施工前画像。

階段の折り返しの踊り場からの撮影。  
(3階と4階の間の踊り場)

マスキングを行う前にゴミ、埃を清掃する。



[写真-4]  
4階踊り場へのマスキング。

幅700mm、奥行き110mmの面積で110mmの間隔になるようにマスキングを行う。



[写真-5]

すべり止めコートの主剤と硬化剤の混合・攪拌。

主剤の缶へ硬化剤(グリース状)を全量移し替える。

手攪拌で2~3分混合する。

混合・攪拌のポイントとしては、ヘラの先端を主剤缶の内壁に沿って挿し込み、ヘラを手前に引く。

ヘラの動きは一定に“挿しては、引くを繰り返し、缶自体を少しずつ回しながら主剤と硬化剤を攪拌すると、2~3分で混合することができる。

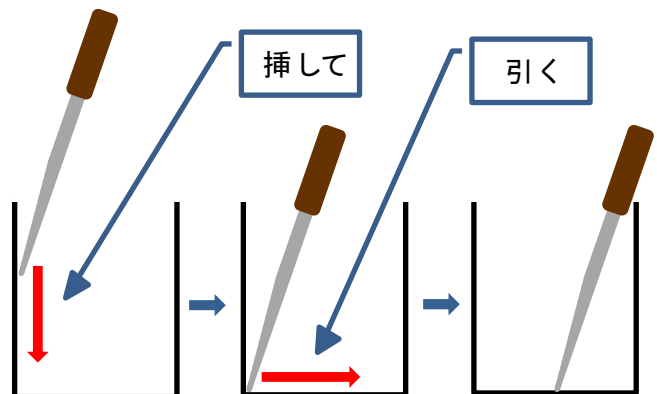


[写真-6]

混合・攪拌完了

約2分で混合・攪拌が終了。

ポイントは、缶の(内側の)壁面、底面の樹脂をヘラの先端で擦り落とすようにして、主剤と硬化剤が十分に混合することが重要。



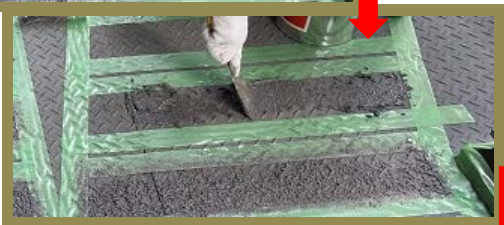


[写真-7]  
塗作業  
3階踊り場。

縞鋼板の模様が浮き出て、見えるくらいの厚みで塗ってゆく。



[写真-8-1]  
混合した「すべり止めコート」をヘラで取り、塗布面へ置いてゆく。



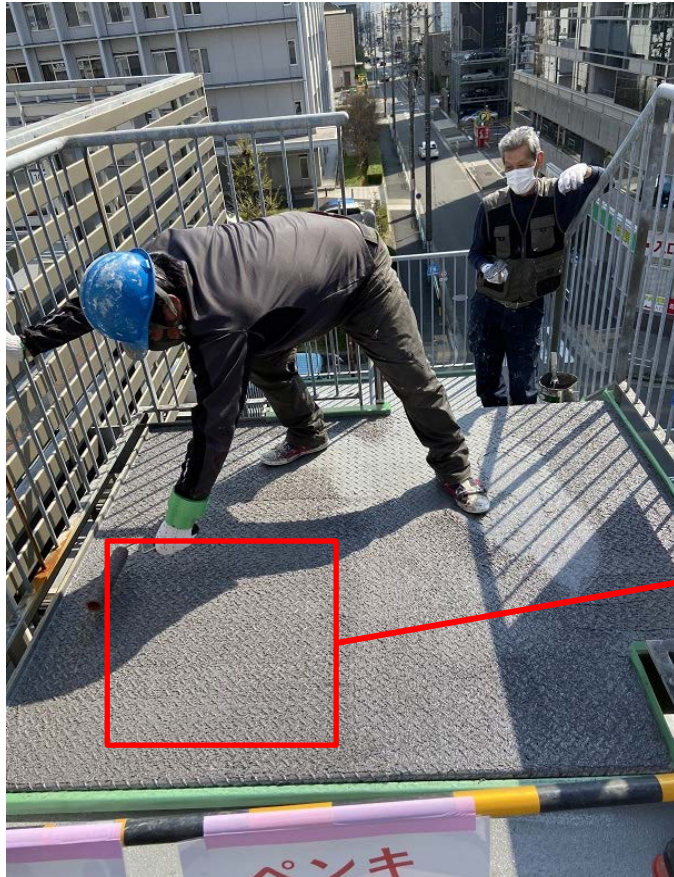
[写真-8-2]  
ヘラで「すべり止めコート」を擦り付けるようにして塗り広げてゆく。



[写真-8-3]  
ローラーで「すべり止めコート」を押し付けながら、縞鋼板の縞模様を浮き出たせる。



[写真-8-4]  
ローラーを2~4回転がして、仕上げてゆく。



[写真-9]  
塗布作業中

最上階の踊り場。

※縞鋼板の模様が浮き出ているのが分かる。



[写真-10]  
塗工中

塗布する際の足元には要注意。



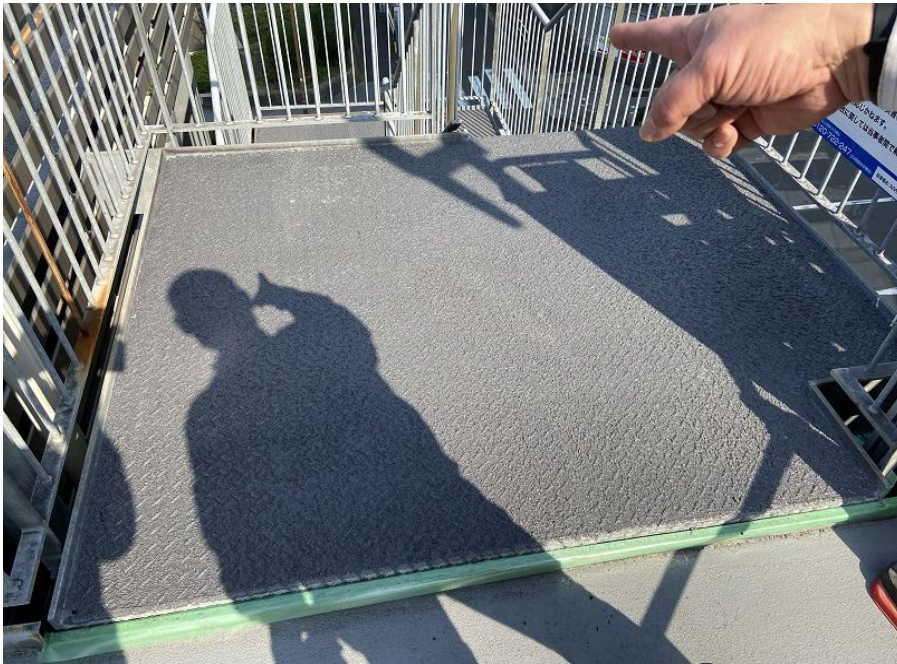
[写真-11]  
養生テープの除去

すべり止めコートの塗布後、直ちに養生テープを除去する。

※ すべり止めコートが硬化後に養生テープを除去しようとしても、綺麗に除去できないので注意して下さい。



[写真-12]  
すべり止めコート塗工完了部の  
拡大画像



[写真-13]  
塗工完了。



[写真-14]  
塗工完了。

以上